

一般質問

12月定例会の一般質問は、11月28日から12月1日の4日間行われ、14名の議員が市政の各分野にわたって質問しました。一般質問は、議案と関係なく市政全般にわたり執行機関に対して、執行状況や将来に対する方針などについて所信を尋ねたり、報告、説明を求めるものです。

岡松誠二議員

質問 チューリップフェアについて

先般開催された直方チューリップフェア実行委員会が不調に終わったと聞いている。そもそも「花いっぱい運動」として市が始めた事業であったと思うが、これまでの流れと運営に関する問題点や課題について、また、今後の市の取り組みについて問う。

答弁 財政状況の悪化から平成19年度にフェアの休止を打ち出したが、翌年度からは市民団体や経済団体などからなる協議会で運営し、26年からは現在の実行委員会に移行している。

現在、観光物産振興協会が受託しているが、収入確保や事務局体制に課題もあるため、今後、観光物産振興協会との連携を強化し、責任と主体性を持つてかわる必要があると認識している。

質問 市営住宅について

中泉中央市営住宅の1棟

目が完成したが、建設費が高過ぎるのではないかと。

また、市営住宅に住んでいる方は、単身の高齢者も多いことから、2DKや3DKだけでなく、ワンルームタイプや1DKなどのほうが使いやすいのではないかと。さらに、空き家や空きアパート対策として、それらを市営住宅として活用できないか伺いたい。

答弁 市営住宅の工事費は、国県などの積算基準に基づいており適正である。

また、単身者専用の住宅は入居希望者が限定されるため、2人でも可能な2DKを建設している。

現在のところ、民間の空き家を活用することは考えていない。

渡辺克也議員

質問 保護観察制度について

保護司の身分は、無給の非常勤国家公務員で、罪を犯した者が罪を償い、反省し、その後の社会復帰の手助けを行っている。

直方保護司会は、昨年度

に「社会を明るくする運動促進協議会」を設立し、犯罪のない社会づくりに取り組んでいる。市にも協力していただきたい。

答弁 基本的には国の事業であるが、基礎自治体としても積極的にいかかわっていく決意である。更生保護ボランティアである保護司などだけに任せるのではなく、行政と関係団体、そして地域社会が連携して社会の力で社会復帰を支援していく。

安永浩之議員

質問 中心市街地に関して

中心市街地については、市民にとって非常に関心の高い案件であることから、前回に引き続いてお尋ねする。

店舗や商店への訪問について、市長の方針である職員及び市長自らの訪問状況を確認し、その中で得られた意見を伺うとともに、今後の中心市街地活性化に向けた市の方針を問う。

答弁 職員は、様々な機会をとらえて商店街を訪問し

ており、市長も商店街や店舗・商店への訪問を行っている。その際、職員が得た意見としては、「商店街が活性化するイベントを実施してほしい」というものが多くあった。今後も積極的にまちへと出向き、多くの方々の意見を聞くことにより、何を求められているのか、何が足りないのかといったことを見極めたい。

質問 福祉施策に関して

介護事業者を対象に行われた総合事業説明会において、サービスを行う事業所を市内の事業者に限定するという説明はあったが、サービス内容に関する説明がなかった。そこで、その内容と今後の方向性に加え、高齢者保健福祉協議会において審議された特別養護老人ホームに関する施設整備計画についても今後の方向性を伺いたい。

答弁 総合事業の新サービスは、現在検討を行っており、導入に当たっては、市内事業者との意見交換などを行い、一体となって取り組めるよう検討する。

また、特別養護老人ホームの施設整備については、今後さらに対象者が増えるため、増床の提案をした。

協議会では、賛成・反対の多くの意見があつたが、今後は、協議会で素案をまとめ、市民に意見を伺うパブリックコメントを実施した後に決定することとなる。

質問 まちなか文庫基本構想に関して

昨年度に調査業務が実施された「まちなか文庫基本構想」について、民間資金を活用した整備方法や事業者の募集・選定方法、また地元商店街への意見聴取、さらには建物の取得や賃貸に関する考え方、集客目標、収益構造など運営についてお尋ねする。

また、もし民間事業者が見つからなかった場合、市が単独の費用を用いて活用する可能性があるのか、様々な方から意見も寄せられていることから市の考えを伺いたい。

答弁 空き店舗の活用を想定しており、立地や建物の特徴を活かした施設改修の

ノウハウなどが必要で、広く民間からアイデアを募り、官民の役割分担を明確にして整備計画を具体化したい。

市としての基本的考えを保ちながらも、具体的な改修・運営形態に柔軟に対応して官民連携の可能性を探っていく。

那須和也議員

質問 高齢者を狙った振り込め詐欺について

振り込め詐欺の被害は、年々増加傾向にある中、被害者の多くは、自分は被害に遭わないという認識を持っていたようである。

そこで、被害を防ぐために、消費生活センターや警察、金融機関など関係機関と連携しながらどのような取り組みや方策が考えられるのか問う。

答弁 ポスターの掲示や市の封筒への掲載、また、講習会開催のほか、関係機関と協力して注意喚起を実施している。

振り込め詐欺は、高齢者や女性被害に遇う傾向が高く、犯罪発生件数は増加

しているが、周囲が気付いて抑止したケースも増えている。

「自分も遭遇するかもしれない」と意識して日常生活を送ることが最も重要であると考えており、この意識が広く市民に浸透するように注意喚起を継続していく。

野下昭宣議員

質問 直方市の都市像について

本市は、近隣都市と比較しても高いポテンシャルを有しており、福岡中央経済圏のリーダーシップを発揮できる「強い直方の創造」を望むが、この考え方と将来構想について問う。

また、チューリップフェアでは、観光物産振興協会や実行委員会だけに任せるのではなく、市民と一緒に開催するために、行政が主体となるべきではないか。さらに、人の流れを生む道の駅の整備についてはどう考えているのか伺いたい。

答弁 本市の強みは、ものづくりの力、交通の要衝地

域、4つの高校の存在、そして花火大会やチューリップフェアなど人々の交流拠点となっている遠賀川などがあり、これらはさらなるポテンシャルを秘めていると考えている。

その中でもチューリップフェアは、老人クラブ連合会をはじめとした団体などにも球根植えや草刈りをしてもらうなど、市民とともにつくり上げる最大のイベントであり、中之島だけでなく、まち全体がチューリップで彩られるような祭りにしていきたい。

また、道の駅については、いずれ考えていかなければならない課題と認識している。

渡辺和幸議員

質問 森林法に基づく林地開発と水害対策について

中泉地区にメガソーラー建設のための許可申請が出されている。市は、森林法に基づいて福岡県に対して意見書を提出しているが、どんな内容か。また、この意見書が十分に反映される審査会になるのか。

この開発が進めば、川端川沿線をはじめ地域住民への大雨による多大な被害が予想されるが、対策は大丈夫なのか伺いたい。

答弁 県に提出した意見書は、「災害防止」「水害防止」「環境保全」の項目について、適切な調査実施による安全対策や廃棄物の処理に伴う法令遵守など周辺への災害防止について徹底するよう明記するとともに、県森林審議会において十分な説明を行い審議されるよう強く要望している。

浸水対策については、河川などの管理者である国、県及び市が連携し、総合的な整備計画を策定の上、整備を行う必要がある。なお、それまでの間、災害時にポンプ車の出動要請を行うなど被害を最小限にとどめるための対策を講じる。

質問 市内保育所の施設整備計画について

質問 保育所の障がいのある園児の支援について

市内の保育所の老朽化がかなり進んでおり、安全・安心な保育を実施する上で、

施設整備も欠かせない。現場の意見などを聞いて整備計画を立てる必要があると思うが、現在の方針と施設の建て替えに関する補助制度の状況を伺いたい。

障がいのある園児への支援は二一ズの高い事業である。子どもの情報を共有するなどして切れ目のない対応を望むとともに、通級指導教室の充実に向けて、県への働きかけを求める。

答弁 補助制度については、国が2分の1、市が4分の1、保育事業者が4分の1を負担する保育所整備交付金がある。

市内14保育所のうち11保育所で耐用年数が迫る中、直方市子ども子育て支援事業計画における32年度からの5カ年計画の策定の際に、保育をはじめとする子育て支援のニーズ量調査や地域別の人口推計などの結果などから保育所の配置の在り方を検討し、保育所の整備計画を策定する。

貞村 一三 議員

質問 小中学校の通学路について

通学路の点検結果については、教育委員会に報告はしているものの、現場である学校に丁寧な説明がなされていないようである。今後、どのように対応していくのか。また、グリーン帯の表示があるところもあれば、ないところもある。さらに、消えかけているところなど管理が不十分であると思うが、どのように管理していくのか伺いたい。

答弁 「交通安全プログラム推進協議会」の結果を得て、ホームページでの公表とは別に各学校に直接説明をしなければならぬと考えている。また、グリーン帯などの通学路における安全対策は、「交通安全プログラム」を策定し、協議会での検討を行い、補助事業を活用した整備を検討したい。

質問 公共下水道の現状と在り方

事業内容について、1軒当たりの接続コストや将来予測も含め、事業の全体像を市民に理解してもらうためにも情報提供が必要であると考えている。

現在、このことがなされていないようだが、今後の方針について問う。

答弁 市民に下水道事業の必要性を理解してもらうことは大切なことであり、積極的に情報開示に努めたい。

また、1軒当たりの接続コスト開示については、議会の会議録をもとに答弁内容を記載するか、もっとわかりやすい表現にして開示したい。

質問 中央公民館の運営の現状と在り方

現在、中央公民館で行われている主催講座の見直しは、いつ、どのように行うのか。また、住民に最も身近な地域公民館の活性化のために、どのような対応策を考えているのか伺いたい。

答弁 来年度に主催講座の受講生や公民館利用者へアンケートを行い、求められる講座を開設する。また、主催講座から自主サークルへの移行は、公民館運営審議会に諮った上で、十分な説明を行い、平成31年度の実施を予定している。

地域公民館の活性化のため、地域リーダー養成講座も来年度に開設するなど地域活動を牽引できるリーダーを養成していきたい。

河野 祥子 議員

質問 公共施設の老朽化について

施設の老朽化が進む中、運営に当たっては各種補助金を活用しているが、補助金下がると市の負担も増えるのではないか。その一つである中央隣保館は、利用者数が、イベントを除けば年間約4000人程度であり、少し物足りない気がしている。開かれた福祉施設として利用者を増やす活動をすべきではないか。

施設の老朽化を踏まえ、新たな保健福祉センター構想については、どのような施設が対象となるのか伺いたい。

答弁 隣保館については、今後、市民に広く利用していただくように周知するとともに方法を検討していく。また、保健福祉センターについては、公共施設等総

合管理計画による老朽施設の面積縮減方針を考慮し、保健福祉機能だけでなく複合施設として検討していく。

質問 子どもの医療費支給制度について

本市では、県の制度を導入することで、小学校6年生までを子ども医療費支給の対象としているが、県の補助金による負担軽減は幾らなのか。

また、子育て世帯の負担を軽減するための中学生の入院助成については、どのような検討がなされてきたのかについて問うとともに、実施する場合には、自己負担なしの助成を求める。

答弁 県の制度改正により、市は約700万円の負担軽減となった。

中学生の入院医療費助成は、平成30年10月からの実施をめどに取り組みを進めていくが、さらなる拡充は財源の確保等により厳しいと考える。

松田 昇議員

質問 植木メカトロビジネスタウンの今後について

上頓野産業団地への企業誘致が完了した後に、植木メカトロビジネスタウンに着手すると約束されていたが、企業誘致が完了した今、今後、どのように計画を実行していくのか問う。

答弁 計画区域内の土地を購入していただいている企業との折衝を今後も継続していく。また、きちんと内部協議を行い、今後の計画について検討していきたい。

質問 コミュニティバスの路線計画について

コミュニティバスは、人口の少ないところをカバーするとともに、交通弱者や交通難民問題の解決へつなげるように運行してほしいが、現在ある5路線は、それができているのか。

西鉄バスへの補助金額を確認するとともに、その補助金をコミュニティバスへ回して運行を充実させることはできないのか問う。

答弁 現行のコミュニティバス路線は人が多く住んでいる地域を中心に運行しており、人口集積の多くない地域には不便をかけているところもある。

西鉄バスへは4路線で約1300万円の補助金を支出しているが、高齢者などが安心して地域で生活していくために、今ある公共交通機関の路線を無くすことはできず、既存のバス路線などを最大限活用し、コミュニティバスではそれを補完する路線を検討していきたい。

矢野富士雄議員

質問 社会を明るくする運動について

全国的には67回を数える「社明運動」も、本市では今年でやっと2回目を迎えた。市は、これまで更生保護をボランティアの保護司や更生保護女性会に頼ってきたが、これからの更生保護行政にどのように取り組んでいくのか伺いたい。

答弁 国の事業であることから、市として今までは積

極的ではなかったが、今後は積極的にかかわっていく決意である。市役所も地域の大きな企業であり、協力雇用主の取り組みについて働きかけを行っていく。

今後とも、更生保護ボランティア団体などより一層の連携を図り積極的に推進していく。

質問 市の補助金について

市から補助金を受けている団体数とその総額は幾らなのか。また、補助金の使途の制限が厳しくなったと聞くが、どのようになっているのか伺いたい。

特に、補助金の少ない団体は厳しい運営状況である。もう少し血の通った対応をすべきではないかと考える。

答弁 昨年度決算で一般会計から補助金を交付している団体は75団体で、交付総額は約2億3000万円である。昨年度に補助金交付規則を改正し、補助の対象を事業費補助であることを原則とし、領収書などの当該事業の支出証拠書類の提出を義務付けた。

佐藤信勝議員

質問 メガソーラーの設置の対応について

現在、中泉地区で山林を切り開いた大規模なメガソーラーの設置が計画されている。大雨のときには、中泉・下境地区をはじめ川端川流域の住民は浸水被害を受け、農作物なども収穫できないこともある。また、当該地域には多くの坑道があり、産業廃棄物が埋められていることも確認されている。

建設が進めば被害が拡大するため地元住民は猛反対しており、今後も反対運動を継続していくが、市としても建設反対に多大なる協力をお願いしたい。

答弁 今回の太陽光発電事業の林地開発申請は県知事許可であるため、市に直接的に開発に関する指導権限はないが、開発による地域への被害が拡大しないよう十分な協議をするように明記した意見書を県に提出している。

今後、この開発を注意深く見守り、地域住民の方々

の不安解消に向けて、できる限りの対応をしていく。

渡辺幸一議員

質問 直方市中央公園について

本市には、親子が一緒に遊具で遊んだりお弁当を食べたりして一日を過ごせるような公園がない。また、高齢者が気軽に散歩できるような公園もない。

現在、整備が進んでいる直方中央公園について、子どもたちが遊ぶ遊具や高齢者向けの健康遊具の設置、また、トイレや照明の問題、さらには、交通量の増加による危険性の問題について、どう考えているのか伺いたい。

答弁 大型複合遊具、3歳未満児用遊具広場、健康遊具を設置する。トイレは、男子・女子・多目的トイレを設置するとともに入口の軒下を広くし、休憩スペースとしている。

また、照明はLED照明などのポールライトを採用する。交通量増加対策としては、隣接道路について現

況幅員の中で歩行空間を確保できないか検討していく。

質問 直方市の文化財について

本市の文化財に指定されている「植木岡分大名列」が県の指定となるために、どのような活動をしてきたのか。また、文化を継承するための市の補助について。さらに、「直方日若踊」、「植木三申踊」が国の指定となるための活動や石炭記念館及び訓練坑道の世界遺産登録に向けた現在の状況について伺いたい。

答弁 文化財の県指定は、福岡県教育委員会が主体的に行っており、「植木岡分大名列」は困難とのことであり、「直方日若踊」、「植木三申踊」の国指定についても同様である。

市の補助としては、社会教育活動費補助金や文化財保護事業補助金があるが、伝統文化に対して新たな補助金交付要綱の制定に向け調整している。石炭記念館本館と救護練習模擬坑道は、筑豊炭田遺跡群として国指定史跡となる

よう文化庁に働きかけを行っている。

阪根泰臣議員

質問 直方市観光物産振興協会について

観光地域づくりを目指すには、地域資源を最大限に活用し、地場産品や体験プログラムをはじめとする商品・サービスを積極的に販売し、農工商業などと連携して地域経済全体の振興をも視野に入れて推進していく必要があると考える。

直方市観光物産振興協会が設立されて約3年が経過するが、一向に観光地域づくりの姿が見えてこない。そこで、市は観光行政を進める立場として、どう認識し、進めようとしているのか問う。

答弁 本市の観光資源は決して他の自治体に引けをとるものではない。まずは、この魅力を発信することが必要であり、市と観光物産振興協会が連携して観光事業に取り組んでいかなければならない。また、広域連携での観光の在り方や、そ

の中で本市としてどう存在感を発揮していくかということも研究していく。

三根広次議員

質問 市の事務執行までのプロセスについて

本市の未来を市民自ら決めていくために策定されたマスタープランにおいて、県道境口鴨生田線や保健福祉センター構想など、市民に理解を得ないまま変更され、また、遅れも出ている。

事務執行までのプロセスについて、いつ、どのように市民へ説明し理解を得てきたのか。本場に市民を中心としたまちづくりを行っているのか問う。

答弁 事業の変更や遅れについては、計画内容が当初の予定から大幅に変更されたため、優先順位や財源確保などの問題により検討を行ったものである。市民への説明は、必要に応じて随時行っており理解を得ている。市民の声を聞いてまちづくりを行い、今後も丁寧に市民に説明していきたい。

福岡県に 要望書を提出

市街地においては、朝夕の交通渋滞や交通事故が懸念され、これらを解消する安全対策や交通ネットワークの構築が喫緊の課題であり、住民生活の利便性の向上や地域経済発展のため、早期の整備が望まれます。そこで、昨年11月10日に県道の管理者である福岡県に対し次の事項を盛り込んだ要望書を提出しました。

① 境口頓野線に引き続き、境口鴨生田線の整備をすること。なお、整備については、事業区間の内、JRガード下を優先した事業推進をすること。

② 県道直方芦屋線天神橋の架け替えとして、下老良植木線を整備することとし、事業化に向けた調査等に着手すること。

③ 前記の二つの事業は本市の負担が生じるものであり、各年度の負担の平準化を考慮した事業計画を策定すること。

平成30年3月定例会日程

2月23日(金)	提案説明
24日(土)	休会(休日)
25日(日)	休会(休日)
26日(月)	休会(議案審査)
27日(火)	一般質問
~	~
3月2日(金)	一般質問
3日(土)	休会(休日)
4日(日)	休会(休日)
5日(月)	質疑
6日(火)	委員会
7日(水)	委員会
8日(木)	採決・提案説明
9日(金)	休会(議案審査)
10日(土)	休会(休日)
11日(日)	休会(休日)
12日(月)	休会(議案審査)
13日(火)	質疑
14日(水)	委員会
15日(木)	委員会
16日(金)	委員会
17日(土)	休会(休日)
18日(日)	休会(休日)
19日(月)	採決

・本会議、各委員会の開議は、午前10時からです。
・日程、開議時間は変更される場合がありますので、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。